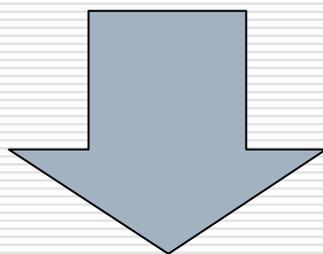


誰のための品質？

岐阜大学 竹田深佳
九州大学 宮地健士
北海道大学 加藤大博

背景

- 重複書誌の増加
- 目録規則に適合しない書誌
- 講習会などで「品質管理」が叫ばれる



品質とは？

3つの視点

- 総合目録データベース (CAT)に関わる3者
 - 大学図書館員
 - 国立情報学研究所 (NII)
 - 利用者
- それぞれの視点で、「品質」がいかに異なるか

4つの事例で検討

ケース1

- 書誌構造の変更を伴うような (大規模の) 調整
 - 固有のタイトルがVOLに記録されている
 - 固有のタイトルかどうか判断が分かれる
 - 親書誌の付け替え
 - (かつ)所蔵館が多い

ケース1: 3つの視点から見た品質

□ 大学図書館員

- 基本的に規則どおりであることが「品質」
- だが、作業量が多いと業務に支障

□ NII

- 規則どおりであることが「品質」

□ 利用者

- 検索しやすく、資料の同定ができることが「品質」
- 規則として正しいかどうかは問題ではない

ケース2

- (合冊などの)ローカルでの運用
 - 合冊された図書をどのように登録するか
 - 付属資料の扱い (VOLかNOTEか)
 - 雑誌所蔵レコードの更新
 - ローカルにのみ登録する書誌

ケース2: 3つの視点から見た品質

□ 大学図書館員

- ローカルの運用にも対応できることが「品質」

□ NII

- ローカルの運用には関与しない
- CATのデータが整備されていればよい

□ 利用者

- ローカルの運用どおりのデータである方がよい

ケース3

□ 必要な情報とその量

- 参考文献や索引のページの注記 (NOTE)
- 論文集などの内容注記 (CW)
- その他のタイトル (VT)

ケース3: 3つの視点から見た品質

□ 大学図書館員

- 書誌の同定に必要な十分な情報が「品質」
- 学習・研究に役立つ情報も「品質」

□ NII

- 書誌の同定に必要な十分な情報が「品質」

□ 利用者

- 資料の同定と選別に役立つ情報が「品質」

ケース4

□ 重複書誌

- 操作ミスによるもの
- 目録規則についての知識不足によるもの

ケース4: 3つの視点から見た品質

□ 大学図書館員

- 重複書誌が無いことが「品質」

□ NII

- 重複書誌が無いことが「品質」

□ 利用者

- 重複書誌が無いことが「品質」

3者が一致するケース

視点ごとの特徴

□ 大学図書館員

- CAT参加館であり、大学の機関でもある
- 他業務 作業量による影響

□ NII

- 規則どおり、整合性あるデータベース

□ 利用者

- 検索でき、その結果を理解しやすい
- 求めている資料を入手できる

CATを取り巻く状況の変化

□ CATの当初の目的

- 目録作業の負担軽減・効率化

□ その後の変化

- 参加館の増加・多様化
- ローカルデータベース (OPAC) の整備
- Webcatの公開

視点の多様化

今後に向けて

- 視点による違いを認識する必要
- 目的を共有することが重要
 - 誰のための「品質」なのか？
 - どのような効果を狙うのか？

視点の違いを超えて
有益な議論を

おまけ

- 「品質管理」のマスコットキャラの提案
 - 「プワン」 CATの利用者
 - 「ピヨ太郎」 プワンの助言者
 - 「???」 CATの品質管理者

- 茂出木さん、後はおまかせします